

たどえりセットされても

「人は鏡」という生き方

4年 R・Oさん

私は「愛ちゃんに向かっていやなことを言つたり、ひどいことをしたりすれば、それは全部自分にはねかえつてくる。まるで鏡みたいに。」という一文がとても心に残りました。なぜならば母が毎日の様に私に言う「人は鏡だよ。」という言葉と一緒にだったからです。嫌な事も良い事も全て返つてくるから、人に優しく、自分を大事にしなさいと言われます。しかし、この本では、対する相手が人ではなくロボットでした。ロボットに愛や感情があるか、という点が本の中でも話されていましたが、私はロボットには感情があるかといわれれば、わからぬと思いました。感情のあるロボットは、相手の気持ちを読みとり、その上で何をするべきかを考え実行できると思います。しかしそれが人間を分析して植えつけられた感情だと言われたらとてもむずかしいと思いました。いつかロボットが人間の仕事を全て代わりにできる未来が来た時に、カウンセラーなどの仕事はいろんな情報をもつていて、より良いアドバイスのできるロボットがいるかも知れないが、相手の感情と一緒に共感して一緒に考えることがで生きるのはやはり人間だけのかなとも思いました。しかし、ロボットが家族になつたり、クラスメイトになる未来が必ずくる、そして必要だと思います。なな私の母のおばが田舎に一人暮らしをしていて、遊びにきた時に、家に帰つらまただれとも話せないよ、さみしいなと言うのを聞いて、私もとてもさみしい気持ちになります。愛ちゃんのような自分のいてほよいロボットが大おばさんのような人と一緒にくらしてくれたら、とても安心できると思いました。なななので、本の様にもしクラスメイトにロボットが来たとしても私は最初は少し方に戸惑つてしまふかも知れないけれど、気持ち悪いなどと思わずには、仲良くしたいと思いました。しかし「愛」がロボットと分かれ、「柚果」と「大樹」のように、「愛」をつれて親にだまつて一緒に逃げられるかと考えると、そこまでの勇気があるかは分からず、登場人物と私はまた違う感情を持つた人だとしました。けれどもし私の妹が本当はロボットで、ちがう所へいくつてしまふとしたら、逃がす為に妹についていくかも知れないと思いました。ロボットだから、人間だから、ということではなく、私にとつてかけがえのない大切な人だから、守りたいと思いました。感情のあるないに関わらず、大切だと思える心が、あつて、守りたいと思える心が、働く力になるのだと改めて気付かされました。人にはそれそれ大切な人や、家族がいて守りたいと思える相手がいると思います。しかし、未来の世界で、ロボットの存在があたり前になつたとき、その身近な相手がロボットの場合、「また買えばいいや」「直せばいいや」と思つてしまふ様なことがあるかも知れないと思って少し恐くなりました。だから私は「人は鏡」相手にしたことは自分に返つてくるの気持ちを忘れずに、周りの人々に思いやりを持つて接しもちろん自分自身も大事にして、周りの人々に私のもと守りたいと思ってもらえる人になりたいと思いました。